標茶町議会第3回定例会

No. 1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
5番	鴻池智子	1. 暑さ対策の整備	<p>7月22日から25日までの4日間、暑さに対する緊急対応として、ういずにクーリングシェルターを設置し、この間の利用者数は37名と聞いています。今後も暑さに対する取り組みは必要であると思うので、以下の点について伺います。</p> <p>①徒歩移動困難な町民に対する送迎体制 ②町民に対する周知方法 ③利用施設の拡大 ④教育現場での対策</p> <p>町民の命を守る対策についての考えを伺う。</p>	町長 教育長	
		2. 町民に必要な情報の周知	<p>公住入居者より、公住にエアコンの設置は難しいのかという相談があり、担当課に問い合わせると、書類提出で設置は可能であるとのこと、多くの入居者はこの情報を知らずにいます。</p> <p>公住の壁には、画鋸・釘など使用してはいけないとの認識から壁に穴をあけることはできないと思っています。やはり、この暑さから体調を崩す人もいます。設置の条件等を周知するべきではないか。</p>	町長	
1番	深見迪	1. 不登校の子どもの権利を尊重し、子どもも親も安心できる支援を	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの不登校はこの10年で3倍と急激に増加し、小中学校で35万人近くになった。これまで少なかった小学校低学年でも増えている。以前も質問したが、本町の現状はどうか。 まだ、内容的には不十分であると考えているが、文科省は、2017年に施行した「教育機会確保法」は、従来の不登校に対する考え方を大きく変えるものであったと認識しているが、どのように変わったのか教育長の考えを聞く。 「学校が嫌い」と言う子どもが急増したわけなので、子どもが通いたくなるような学校にしていくことが重要であると考えますがどうか。そのため、どのような取り組みを行っているか。また、具体的な成果はあるか。 要因の大きな一つに学校に極端な競争と管理を持ち込み、学校が子どもに合わなくなってきたことではないかと考える。不登校は、子どもに問題があるとは考え 	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	深見迪		<p>ていないがこの点ではどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の最新の不登校対策である「COCOLOプラン」では、タブレット端末による不登校気味の子どもの「早期発見」を強調し、行き渋り傾向の子どもをあの手この手で登校させることに重点が置かれ、子どもの気持ちを尊重する対応が少なくなっている。不登校「当事者ニーズ全国調査」（多様な学びプロジェクト、2023年）によれば、子どもの最も「嫌だったこと」は「登校強制・登校刺激／望まぬ干渉・接触」（44.7%）であることからもうかがえる。子どもの気持ちを尊重する対応が何より重要であると考えるがどうか。 ・親への支援も必要であるが、学校外の公的窓口などを設け、親子が信頼できる相談者とつながれるようにしたり、各地の事例にみられるように「親の会」等の支援、オンラインによる学習や交流や全ての学校・自治体に「学習」に限定されない居場所を設置し、子どもに必要なことが保障され、どの子どもも安心して過ごせる環境を整えることがいま必要と考えるがどうか。 		
10番	渡邊定之	1. 町道の維持管理の徹底で事故等を未然に防ぐため対応をするべきではないか	<p>地域住民が安全に生活し、農作業ができる町道の維持管理の一つとし路肩の草刈り等が行なわれてきたが、今年度においては徹底されていないと考えるがなぜか。草丈が車高より高く、見通しの利かない交差点が多くみられるが、実態は把握しているのか。せめて交差点から何十メートルの草刈りを実施するだけでも事故防止になると思うがどうか。</p> <p>作業機の大型化により交差点の路肩がひずみ、放置すれば崩れることが心配されるが、承知しているか。合わせて取り付け道路の傷みも激しいところがあるが対策は検討しているか。</p>	町長	
3番	本多耕平	1. 防犯カメラを設置すべき	<p>安心・安全な町づくりの一助として、私は公共施設への防犯カメラの設置をすべきと考えます。自然災害は少なく、また犯罪も少ない標茶町ですが、行政では常に防災のために巡回パトロールを実施し、また民間では防犯協会をはじめ、様々な団体、個人が明るい町づくりのために努力されていることに敬意を表します。</p> <p>しかしながら、近年自然災害、人的犯罪の多発化がテレビ、マスコミ報道されている時、私は改めて本町の防犯対策に注視いたしました。民間会社、金融機関等は自発的に防犯カメラを設置して対策しておりますが、標茶町における防犯対策でのカメラ設置はどのようになっているか。</p> <p>犯罪が巧妙化してきており、現在、スピーディーな解決策の一つとして、また犯罪の抑止として、カメラの設置は不可欠と考えます。特に各地域にある公民館、住</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
3番	本多耕平		民センター、トレーニングセンター等、町民や不特定多数の方々がより多く集まる施設等への設置を強く望むものであります。		
9番	松下哲也	1. 路線バスの乗客数の状況は、昼の便をデマンド化にしては	<p>令和6年6月定例会で一般質問させて頂いたが、その後の対応について再度質問する。約50年にわたり地域住民の移動手段として町営路線バスが運行され、現在は6路線で実施されている。運行開始当時と比較して人口が半減している中で乗客数も変化してきていると思われるが、各路線ごとの朝の便、夕方の便の乗客数はどのような状況になっているか。</p> <p>週1便各路線で運行される昼の便の状況については、昨年の質問で答弁を頂いている。昼の便をデマンド化してはとの質問で、実務上の課題を研究していくとの答弁をされている。</p> <p>本町の路線バスの運行は町民の生活に不可欠な公共交通であり、中学校の統合、高校の通学、免許返納者の通院にとっても重要なバスであると認識は共有している。ただ、昼の便については早急にデマンド化を含め、新たな運行体系を整備すべきではないか。今回、2路線、同僚議員と乗車してみて、その思いを改めて強くしたところである。</p> <p>実務上の課題を研究していくということであるが、どのような内容か、また他の自治体の導入事例についても調査、研究されたか。</p> <p>財政負担の軽減と高齢者等、交通弱者の移動手段の確保、更なる住民サービスの向上につながると考え、昼の便をデマンド化すべきではないか。また朝の便、夕方の便の乗客数の検証をして使用する車両を柔軟に対応出来る路線もあるのではないかと、町長の所見を伺う。</p>	町長	
11番	類瀬光信	1. 正確な情報を公表して行財政改革を円滑に進めるべき	<p>本町の台所事情は、3月定例町議会直前に約15億円の財源不足が明かされ、特定目的基金を取り崩す条例改正を行い辛うじて新年度予算が成立した。しかし、効果が検証されないまま継続される政策や、町の基本方針が定まらないまま始動する箱物建設が並ぶなど、ひっ迫した状況とは乖離した部分もあったことから、一部予算の組み替え動議が可決されたことは記憶に新しい。そして、議会におけるこうした議論は、行政からの正確な数値の公表や誠実な説明がなされなければ成立しない。ところが本定例会に提出された補正予算案には、多額の経常経費が計上されている。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	類瀬光信		<p>燃料費、光熱水費などは前年度の当初予算、決算額に対して3ヶ月分相当の額である。学校給食や特別養護老人ホームの食材費についても同様に、事業の性格を考えれば正常な運営とは言えないのではないかと。令和7年度予算は、経常経費等を意図的、組織的に9ヶ月分、あるいは半分で計上し、また、使用料のように流動的な要素がある事業の予算を敢えて過少に見積もり、予算総額の圧縮を図ったように見えるがどうか。</p> <p>これでは結局、令和7年度予算の財源不足がいくらであったのかわからない。財源不足を少なく見せる意図があったとしたら、行財政改革を共に進めるにあたり不信感を抱かざるを得ない。行財政改革を円滑に進めるためにも、令和8年度の予算編成前に、町民と議会に対して正確且つ正直な情報を提供し説明する責任が町にはあるのではないかと。</p>		
		2. 増加する紙おむつは炭化によって資源化を	<p>人口は減少しているが、生活ごみは減らない。中でも、生活ごみの約7%を占めると言われる紙おむつの処理に注目が集まっている。ほとんどの自治体が焼却処理しているが、中には再利用や、燃焼以外の方法で処理することで二酸化炭素の発生を抑制している例がある。特に、紙おむつを汚物ごと炭化させ、炭素とバイオ炭が混ざったハイブリット炭を製造して土壌改良剤として利用している例に注目したい。プラスチック由来の炭素による土壌改良の効果は既存の農業技術だが、バイオ炭に含まれるNPKの肥料効果との融合によって野菜等の増収が報告されている。未だにゼロカーボンの基本方針が定まっていない本町の状況からすると、こうした新しい発想について迅速に研究し取り入れる余地があるのではないかと。以前、バイオ炭を圃場に施用することとバイオ炭を製造する炭化炉が国の補助対象になることは説明しているが、ハイブリット炭についても同様の扱いである。深刻な財政難の最中、燃焼によらない生活ごみの処理が貴重な資源を生み更には焼却施設の延命と農業振興につながるとしたら朗報ではないかと。</p> <p>少子化により、こどもの紙おむつは減少しているかも知れない。しかし、高齢化によって大人の紙おむつが増加の一途を辿ることは想像に難くない。お金をかけて燃やし焼却炉の寿命を縮めるだけの処理から、二酸化炭素を発生させずに資源をも得る炭化処理に取り組んではどうか。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	類瀬光信	3. 西別岳登山者の生命を守る環境整備が急務ではないか	<p>羅臼岳で発生した、トレイルランニング中の男性がヒグマに襲われて亡くなるという痛ましい事故は、対岸の火事ではない。西別岳は、登山道の形状や整備状況からプロランナーにも注目されている。特に、西別岳から摩周湖の第一展望台までを縦走するルートは、景観も変化に富み、たびたびツアーも開催されている。しかし、ヒグマの生息地であることは疑う余地がなく、十分な警戒が必要なことは言うまでもない。羅臼岳での不幸な事故の影響でトレイルランニングを目的とする登山者が増える可能性がある。ヒグマの情報やワイズユースを呼びかける看板等の設置を急ぐべきではないか。また先日、トレイルランニングツアーの一行が乗ったマイクロバスの横転事故が発生していることから、関係機関と連携し林道の手入れをこれまで以上に行うべきだ。さらに、山小屋とトイレの整備も行うことで観光登山者に安全安心を提供し、本町が重要視している交流人口の増加を図ってはどうか。</p>		
4番	鈴木裕美	<p>1. 町立病院で人工透析の実施を</p> <p>2. 釧路湿原かや沼観光宿泊施設周辺の整備について</p>	<p>人工透析を必要とする患者の方々は多くが釧路市内の病院などで治療を受けていると承知しているが、遠距離の頻繁な通院が大きな負担となっており、町立病院での実施を望む声も多い。</p> <p>まず、現状について伺う。</p> <p>①本町住民で人工透析を受けている患者数は何人か ②その方々の通院先（市町村）はどこか ③通院の手段は何か</p> <p>標茶町立病院は平成8年3月に新築された。現在の施設の中で人工透析室としての部屋（現在、電気治療等のリハビリ室として使用）を確保していたと承知しているがいかがか。</p> <p>人工透析を実施するには設備ばかりではなく、医師、臨床工学士、看護師などのスタッフの確保も必要など課題もあるが、住民の医療充実のため、標茶町立病院で人工透析を実施すべきと考えるがいかがか。</p> <p>昨年、改修オープンした釧路湿原かや沼観光宿泊施設を本町の観光拠点として生かすには、周辺の整備も必要と考える。</p> <p>令和3年に策定された観光振興計画のエリア別施策でも、同地区での課題が示されているが、現在の取り組み状況について伺う。</p> <p>シラルトロ湖キャンプ場をはじめとする周辺施設の整備の促進やカヌー、ホース</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
4番	鈴木裕美		トレッキングなど、具体的なメニューの実施に向けた取り組みをすべきと考えるがいかがか。		
		3. 虹別オートキャンプ場の遊具の増設を	虹別オートキャンプ場の入り込み状況を伺う。家族連れの方々から遊具の増設を望む声があるが、増設の考えを伺う。	町長	
2番	櫻井一隆	1. 新たに始めたクラウドファンディングの内容を伺う	<p>標茶町は新たに「クラウドファンディング型ふるさと納税」の募集を開始すると、6月24日の北海道新聞に掲載されていた。期間は6月13日から、来年3月末までとし、目標額は1千万円で、目的は標茶高校の生徒の通学環境の向上とのことである。生徒数が減少している中でも学ぶために、公共交通機関を利用して通ってくる生徒がいることは標茶町にとってもありがたいことである。</p> <p>生徒数の減少は学校の存廃にも直結する。例としては、来年度に釧路市において、商業高校が生徒数の減少を理由に釧路明輝高校に統合され、その役目を終える。たとえ、郡部の高校であっても例外なく、統廃合の対象となることを意味している。町はこれらの現状を考慮して、地元高校を存続させる手段として、通学環境の改善に踏み出したことは理解できる。</p> <p>町が考える通学環境の向上とはどのようなことか質問する。</p> <p>①構想と内容の具体的な説明を求める。 ②現在までの応募件数と金額の状況を問う。 ③この募集は次年度以降も継続するのか。 ④記事では3月定例会で予算の執行凍結となった5,603万円の生徒確保対策事業（シェアハウス整備）にも充てたいとの内容だった。どのようなことなのか説明を求める。</p>	町長	